



昭和46年の中教審答申、「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」で、教員養成確保とその地位の向上の基本構想が打ち出され、その具体策の一つとして、昭和53年10月1日に日本の新しい教員養成の基幹大学として本学は創設されました。

全国から集まった146名の意欲溢れる現職教員の大学院生を前に、谷口初代学長は、江戸時代の著名な学者熊沢蕃山の言葉を引用して全人格的・全人間的な陶冶の大切さを説かれ、教師

としての人間像を絶えず磨き、教育研究における理論と実践との統合・一体化を目指しての研鑽を強調されました。それから四半世紀余。平成20年には、創立30周年を迎えます。修了生は延べ6,000人を超え、そのうち約4,700人が全国の教育現場で活躍しています。

日本の教育界の先駆的な役割を担ってきた兵庫教育大学は、いま「教職大学院」の設置という新たな目標に歩みだしています。教職大学院は、「学校現場において、実践力、応用力などの高度な専門性を身に付けた指導的教員及び学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成」を目指すものです。

教職大学院は、これまでの大学院とは異なり、基本的には4割の実務家教員を入れることが義務付けられるなど、学校現場とのむすび付きを重視するのが特徴です。

大学にあつては、「大学と教育現場の協働的教師教育プログラム」が文部科学省の教員養成GPに採択され、大学と教育現場を結びエゾンオフィスが設置されました。同窓会では、研究

等で会員と大学との関係をより円滑に進めるため「教育実践ネットワーク」の構築を大学と連携し実現しました。

近年、教育をとりまく状況は大きく変容し、学力の低下、はじめや不登校の深刻化、家庭の教育力の不足等、学校の抱える問題も複雑多様化していますが、日々、多くの問題を前に、教育現場で悲戦苦闘している同窓会員の汗と涙でえた叡智と工夫、経験と理論が次代の教育を拓く鍵を握っています。

教職大学院の設置には同窓会員の参画が不可欠であり、平成の大改革である教職大学院の設置に向けて、同窓会員の結果と支援を切望いたします。

また、本学開学30周年を機に、大学の教育研究の質的向上と充実を図るため、「兵庫教育大学教育研究振興基金」の創設が企画されています。

ついては、諸般の事情がおりとは思いますが、趣旨を理解いただきご協力をお願いします。

今後とも、大学との関係や協力を含め同窓会の諸活動が円滑かつ活発に推進できますよう会員諸氏の力強いご支援を期待しています。

## 教職大学院の設置と同窓会

同窓会長 吉田 廣

第三十一号

平成十九年三月一日発行

兵庫教育大学大学院  
同窓会 広報部



# 兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

# 授業を極める、 学校現場とともに

授業実践リーダー・コース責任者 岩田 一彦



うな教員を養成したいと考えています。

- ① 優れた実践的指導力を備えた教員
- ② 学校で指導的役割を果たしうるメンター教員

- ③ 学校教育のかかえる複雑かつ多様な諸課題に対して、実践改革へのリーダーシップを発揮できる教員

「授業を極める、学校現場とともに」のキャッチフレーズに代表されますように、本コースでは、授業実践と学校の実践課題を中核において教育研究を進めます。本コースの理解を進めていただくために、設置の趣旨、教育課程、入学希望者・修了生へのメッセージの3点について述べていきます。

## 1. 設置の趣旨

本コースでは、学校現場で一定の教職経験を積んだ現職教員や主として教員養成系学部卒業生を対象に、次のよ

現在、どの学校も積極的な研究活動を展開しています。しかし、優秀なリーダー不在の学校では、課題や仮説の設定、検証過程の展開等が、科学的、実践対応的に展開できていない場合が見られます。本コースの学生は、こうした諸課題に因應することが出来る知識・技能・資質を、十分に備えて修了することが出来るように養成します。

## 2. 教育課程

新設される教職大学院の考え方を、教育課程に緻密に組み込んでいます。共通科目の履修の後に展開される選択

科目においては、どの科目においても、理論、実践課題の分析、モデルの開発等を組み込み、学校現場の諸課題と直接的に結びついた授業展開をします。その授業過程では、学生と複数教員が一緒に課題解決にあたり、授業作りを進める形での展開をします。

実習科目では、現任校の課題、学生の持っている課題を中核において、学生の問題意識・関心を大切にしながらの実習の展開を進めます。こういった考え方を踏まえて展開する専門科目の授業科目名を示しておきます。

### 〔教育実践高度化専攻〕

#### 授業実践リーダー・コースの授業科目

##### ○専門科目

- ◆教員養成・研修におけるメンターシップに関する分野
- ・メンタリングの理論と実践
- ・教育実践者の専門的な思考形式とその知識基盤

#### ◆研究推進・課題解決研究に関する分野

- ・教育実践研究の組織化と推進
- ・学校における実践課題の発見・

#### 探求過程

- ・学校カリキュラムのデザイナーとしての開発と評価
- ・学習環境の開発と改善

#### ◆授業実践開発・教材開発に関する分野

- ・教科カリキュラム開発、単元開発・指導法開発及びその評価
- ・高度な授業実践における授業の設計、展開、分析・評価及びその改善
- ・素材研究と教材開発に関する理論及び方法・技術

#### ◆教育実践改善研究に関する分野

- ・教育実践課題解決研究

## 3. 入学希望者・修了生へのメッセージ

わが国で最初に創設される予定の教職大学院授業実践リーダー・コースで、新しい歴史の1ページを、学生、教員、学校現場とともに作っていきましょう。意欲に満ちた学生の入学を、教員一同、期待しています。また、修了生諸氏が本コースへの入学を勧めて下さることを期待しています。

記念講演

「学力問題の現在」(要旨)

兵庫教育大学 学長 梶田 叡一

今日は、学力問題の現状と教育課程審議会の最近の動きについて話をしたいと思います。

中央教育審議会では、新しい指導要領の改訂を進めています。改訂までの流れとしては、まず10月の終わりに中間まとめが出ます。ここでは各教科の時間数や主要な内容が明確になります。そして11月から12月にかけて、教育課程部会を開催し、最終結論を出します。そして新指導要領の答申を出し、3月の告示を目指します。4月から移行措置要領が出され、新学習指導要領の移行措置に入るという予定です。しかし、1年目からすぐにでも新指導要領に移行したいという意見もあります。その背景にはこれまでの指導要領のもとにおける、「ゆとりの中で生

きる力を育む」という言葉だけのきれいな教育行政が浸透して、現場もそれに動かされたという反省があります。

2000年と2003年のOECDの調査およびIEAの調査によると、見える学力については、日本は20年から30年ほど前まではトップでしたが、ついに数力国が日本の上に立つようになっています。特に、読解力、記述式問題、データなどを読み取って問題を解決する応用力が先進国の中で最も低いという結果が示されました。そのため、新指導要領には読解力をどの教科にも入れるという動きになっています。読解力といわれる問題解決力が低い現状から考えると、これまで10年ほど「ゆとり教育」といわれる中で力をつけていこうとするきれいなことでは、実際の問題をしっかりと取り組んで解決していくといった力がついていなかったことが浮き彫りとなっています。

は、少人数・習熟度別の指導でどうにかなるという問題ではありません。意欲を喚起させる学校の雰囲気、環境が大切なのです。例えば、朝読書を取り組む学校が増えましたが、子どもが興味をもてる本が充実していなければ、絵に描いた餅です。学習意欲は刺激から沸き起こります。その刺激を与えるために学校は何を与えるべきか。正直、この10年の教育行政は、自然に意欲が出ることをねらったことが失敗だったと言わざるを得ません。そこでこの10年のつけをどうするかという危機意識をもって新指導要領の改訂に取り組んでいるわけです。

2001年からの教育課程審議会の中で決まったことは、**学習指導要領の最低基準化**です。これまで学習指導要領の示す内容は標準であり、逸脱は処分の対象でした。しかし、2003年から一部改定となり、上限規定をなくし、内容を広げ、高く、深いものを取り上げて扱ってもよいことになりました。時数も最低基準として、必要に応じて学校の設置者と管理者の判断で授業時数を増やしてもよいとしました。

(数学)、理科、社会の内容に重みをもたせ、時数は国語のみ週時数が1時間増えるという案になっています。生活科は現状程度の内容になります。総合的学習は週2時間ほど位置づけます。うわさとなっている小学校からの英語導入については、5年と6年に週1時間ほど教科として新たに入れる案が確定的となっています。

来々4月、全国学力テストを実施します。その実態を把握し、形成的評価として次の手立てを考えていくことは必要です。内容は、客観式、記述式、調査の3本立てです。アメリカ、イギリスでは、かつて教育がたるんだといわれた時代がありました。そこで約80年間重視してきたことは「Back to the basic」(基本にもどる)という教育行政です。教育は、子どもが育つプロセスでなく、結果が出なければ意味がありません。つまり、活動したらそれを血肉化するといふ、体験の経験化が必要なのです。



同じくOECDの調査では、学習に関心・意欲の項目が最低という結果でした。学習に対する関心・意欲

は、まず、主要教科である国語、算数

先生方には、今後も教育の変遷の状況や現状を把握しながら、兵庫教育大学で学んだことを生かして、情報ネットワークを活用して第一線で活躍くださるようお願いいたします。

(文責 岩手県同窓会)

## 講演「啄木 うた散歩」(要旨)

石川啄木記念館 学芸員

山本 玲子氏



のは滅びない」とも言っています。

歌集「一握の砂」には盛岡のことを詠んだ歌が47首あります。その中で最初の歌が「病のこと 思郷のこころ湧く日なり 目にあをぞらの煙かなしも」であり、47首続きます。次に「洪民を詠んだ歌が54首書かれてあります。これらが故郷を詠んだ歌になります

が、最後の歌が「ふるさとの山に向ひて 言うことなし ふるさとの山はありがたきかな」で締めくくられています。このような歌からみると啄木にとって盛岡・洪民どちらも故郷だと思っていたことが分かります。また、故郷の様相について「人生」狭く言つて現実というものは、決して固定したものではない、我々は時々刻々自分の生活(内外の)を豊富にし拡張し、然して常にそれを統一し、徹底し、改善していくべきではないでせうか」という言葉を見つけました。変わっていく故郷ですが、変わっていくことを恐れてはいけないということを啄木は言っている

のだと思います。むしろ変えていかなければならない、と言っているわけですから、故郷が変わっていくことを柔軟に受け止めているわけです。

啄木の父親は、常光寺の住職をしていました。啄木の作品には故郷が影響していると言われますが、親の姿が影響しているだろうと考えています。父親は住職の傍ら小学校の教壇にも立ちました。また詩歌にも造詣が深い方でした。こうした父親の姿を見て、啄木は育ちました。子どもが育つには周りの大人が重要だと私は思うわけです。また同時に故郷も啄木に影響を与えています。「洪民は、家並み百戸にも見たぬ、極く不便な、共に詩を談ずる友の殆ど無い、自然の風致の優れた外には何一つ取柄の無い野人の巣で、みちのくの広野の中の一寒村である」と表現しています。洪民は奥州街道に開けた村で街道を挟んで茅葺きの家が並んでいたのです。その屋根には、百合の花、桔梗などが咲いていて、そういうものが啄木の記憶の中にあるわけです。自然は大変すばらしい。ただ、「野人の巣」と表現しています。啄木にとつてこれは実は褒め言葉で、これが洪民の特徴。なにも開けたところがすばらしいのではない。「みちのくの

荒野の中の一寒村」も同様で、啄木にとつて自慢なんです。こういうことを故郷の特徴としてとらえているわけなのです。ただ故郷で暮らしているときの啄木は、「村の人たちと同じような平安、幸福を得るわけにはいかない。自分は心の富のために、不断に戦い、苦しみ泣かなければならない」と日記に記しています。洪民というところは、時間の流れがゆっくりしているんです。その中で過ごす啄木は、心の富のために、村の人たちと同じように過ごしてはならないという思いがあり、啄木の文学に影響しているのです。

故郷で過ごしている啄木は、「恋人である自然がある。しかし村の人たちは、なぜ自分を受け入れてくれないのか」と思ったことがありました。そのあとに「嬉しき景色、嬉しき人、嬉しきことの数々をかぞえては、自分は矢張、この、世界のまたとき洪民を遠かに離れることが出来ぬようにも感ぜられる」という思いになります。このように啄木の心の中で様々な葛藤があるわけです。葛藤が啄木の心を豊かにしていくのだろうと思うわけです。「一握の砂」の根底には、故郷で過ごした日々であるのです。

今年には啄木生誕120周年であることから、新聞で「啄木 うた散歩」の連載を始めることになりました。この連載を始めて、啄木のうたには、特別なものを歌にしたものがないということがわかってきました。普段の生活の中、何気なく通り過ぎていくものをつかみ取って歌にしているわけなのです。啄木は「これは歌らしくないとか、歌にならないとか勝手な拘束はやめて、自由に歌えはいい」と言っています。また「忙しい生活の間に心に浮かんで消えていく刹那々の感じを愛惜する心が人にある限り、歌というも

## 実践発表

# 不思議の国の全校朝会(要旨)

西和賀町立湯田中学校 校長 川村庸子

### ■はじめに

校長一年目で赴任したのは、岩手県三陸海岸の北部、北リアスの街と呼ばれる久慈市の久慈湊小学校(児童数243名、10クラス)である。校名に「湊」という字が入っているが、保護者に漁業関係者はほとんどなく、サラリーマンと公務員で占められ、建設関係従業員では出稼ぎも多く見られる。例外なくこの街にも不況の波が押し寄せ、決してゆとりある生活ではないが、保護者の教育的関心が高く、地域で子供を育てるといふ地域教育振興の意識が根づいている。

小学校勤務は、はじめてである。入学式では、懸命に笑顔をつくり、緊張しながらお祝いと歓迎の言葉を受けた。目の前の子どもたちの反応を受け止める余裕もなく、気がつくとも5・6年児童の退屈そうな顔と大きなあくびが目に見え込んできた。子どもは正直

である。この時はじめて、小学校一年から6年までの児童に、退屈させずに最後まで話を聞いてもらうことの難しさを実感したのだった。

### ■子どもたちが待ち望む

#### 全校朝会に

校長が、全校児童に直接話をする場面は、年間合計にするとかなりの回数になる。1年から6年までの児童が、飽きることなく最後までしっかりと聞くことができ、次の全校朝会を待ち遠しく思う講話にしたものだ。

これまでの教職28年間は、すべて中学校の理科教育に関わってきた。子どもたちは、自然の現象に真っ直ぐに興味を示し、自然の不思議を解明しようという観察に没頭することができる。型破りのようだが、手だては決まった。毎月2回の全校朝会は、演示実験をプラスした講話を行うことにした。ジャン



ポ・シャボン玉作り、減圧実験、光る液体実験など、講話の内容と関連させた実験を行ってみた。2回、3回と続けていくうちに子どもたちは予想以上の反応を示した。全校朝会の朝、登校してくる子どもたちは、「校長先生、今日は何の実験するんですか」と目を輝かせて問いかけてくる。また、子どもたちの口コミで、地域の老人クラブからもお誕生会の出演以来が来るようになった。

### ■子どもたちは変わったか

「1年から6年までの児童が、飽きることなく最後までしっかりと聞くこと

ができて、次の全校朝会を待ち遠しく思う講話にした」という当初の目的はほぼ達成できたが、その過程で生まれた思わぬ副産物が嬉しかった。科学への興味・関心の高まりである。長期休業の自由研究では科学的な内容を取り上げる児童が増え、積極的に県内の発表会に参加するようになった。児童の研究意欲に後押しされるように教師側の指導体制も整えられた。学ぶ意欲は、「なぜ?どうして?」という疑問が出るかどうかではあることができる。子どもたちの「なぜなぜセンサー」よ、もっともっと元気になるくれ。

今夜も宿舎の台所でプラスチックを片手に魔女のように仕込みをしている。

### \*出版のお知らせ\*

『不思議の国の  
全校朝会』  
川村庸子

(新風舎 TEL:03-5775-5043)

9月下旬に発行しました。  
どうぞご覧ください。

## 同窓生紹介

## 算数教育一筋に

大阪成蹊短期大学 教授 小西豊文



になった。当時は算数担当として3年間で200の授業研究会に参加した。算数の授業の奥深さに目覚めた日々であった。そのことを次の2冊の本にまとめた。

「自ら学ぶ意欲を育てる算数指導の基礎技術」(1993年明治図書)

小中高の恩師3人の影響を受け、大阪教育大学の数学科へ進んだ。その縁から、昭和47年4月に小学校教員となり、早々に算数教育研究の世界に足を踏み入れることになった。研究会組織等の仲間との研究が楽しくて教材研究、授業研究に精を出す若き日々であった。また、大阪市教育研究所での研究員や兵庫教育大学大学院への内地留学の機会も得て、ますます算数教育研究の楽しさを感じるようになった。40歳で転機が訪れた。大阪市教育委員会の指導主事

りたかった。6年生への卒業前の算数授業実践をしたり、校長室から「算数だより」を発刊したり、「算数朝会」を実施するなど校長の仕事の中に算数を引っ張り込んだ。そのことを次の1つの論文と2冊の本にまとめた。

「算数でセンスオブワンダー」

(2002年教育研究集録第8集)

「子どもが飛びつく算数面白百物語」

(2003年明治図書)

「みんなで楽しむ算数面白朝会」

(2006年明治図書)

最近では、中央教育審議会の算数数学部会の委員をさせていただいたり、中国(上海)への算数視察団に参加したり、関西算数授業研究会の組織に寄与したり、いろいろな取り組みに忙しい日々をおくっている。しかし、全部「算数」関係である。ゼミも「算数教育論」である。この4月よりゼミの卒業生が教員や講師として教壇に立つ。これも楽しみである。また、専任の大学が変わる。4月からは、大阪成蹊短期大学児童教育学科(教授)となる。

「関心意欲態度を育てる算数科導人の基礎技術」(1995年明治図書)

その後、幸運にも、文部省の教育課程実施状況調査の委員や小学校学習指導要領算数編作成協力者などの仕事をさせていただく機会を得た。教頭職や教育委員会の小学校係長、主席指導主事をしながらであったが、楽しみな東京出張の日々であった。そして、48歳の時、小学校長となった。文部科学省の仕事も続けつつ、学校経営や校長会の仕事もしながらもやっぱり算数教育の何かが日々や

そして、再び大きな転機が訪れた。定年退職まで6年を残し芦屋大学の児童教育学科(助教)に行くことになった。教員を育てる使命があつた。しかも算数科教育法を講義できるといのが魅力的であった。時間的余裕もあり、年間70回程度の学校指導訪問も行うことができた。学校現場を離れ、外から授業を眺めるとまた違った考えが湧いてくる。自分の算数の授業観が何となく変わってきている。それをまとめたいと目下思索中である。

このように自分でも片寄りを感ずるほど算数教育一筋でやってきたように思う。でもよかった。小学校時代の恩師から発刊した書籍にお褒めの言葉をいただく幸せや、いろいろな土地を廻り兵庫教育大学大学院の学友に再会する幸せなどいろいろな幸せに出会うことができる。このような基盤の大きな節目になっているのが兵庫教育大学大学院であることは間違いない。同窓会の仕事を手伝えることで、少しでもお返しができるばと思っている。

## 兵庫教育大学大学院同窓会第24期決算報告書

(収入の部)

自平成17年6月1日～至平成18年5月31日

科目	予算額	決算額	増減	摘要
23期生会費	1,488,000	1,695,990	207,990	(15,000-120)×100名・他15名
繰越金	2,797,527	2,797,527	0	
雑収入	200	76	△124	利息
合計	4,285,727	4,493,593	207,866	

(支出の部)

部	款 項		予算額	決算額	増減	部	款 項		予算額	決算額	増減	
	款	項					款	項				
研究部	研究会費	講師謝礼	80,000	80,000	0	組織部	事務費	需要費	100,000	0	100,000	
		需要費	10,000	0	10,000			通信費	10,000	0	10,000	
	事務費	旅費	10,000	0	10,000			旅費	50,000	0	50,000	
		計	100,000	80,000	20,000			会議費	20,000	0	20,000	
事業部	事務費	需要費	130,000	0	130,000	会計部	事務費	計	180,000	0	180,000	
		通信費	10,000	0	10,000			需要費	10,000	11,244	△1,244	
		旅費	20,000	0	20,000			通信費	10,000	9,000	1,000	
		会議費	10,000	0	10,000			会議費	5,000	0	5,000	
計	170,000	0	170,000	計	25,000	20,244	4,756					
広報部	印刷費	会報印刷費	200,000	187,097	12,903	総務部	役員会費	旅費	300,000	289,680	10,320	
		郵送費	会報発送費	350,000	0			350,000	会議費	30,000	20,360	9,640
	事務費	需要費	5,000	1,155	3,845		渉外費	旅費等	100,000	14,100	85,900	
		通信費	10,000	8,320	1,680			事務費	需要費	10,000	1,300	8,700
		旅費	3,000	3,428	△428				通信費	20,000	4,490	15,510
		会議費	2,000	0	2,000				印刷費	100,000	78,162	21,838
	計	570,000	200,000	370,000	計		560,000	408,092	151,908			
総会費		350,000	350,000	0	予備費		2,330,727	4,700	2,326,027			
繰越金・その他		2,330,727	4,700	2,326,027	合計		4,285,727	1,063,036	3,222,691			

収入決算合計：4,493,593円

支出決算合計：1,063,036円

差引残高：3,430,557円 第25期繰越金にあてます。

兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金会計は、次のとおりです。

\*兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金\*

定額貯金 5,325,000円 平成9年10月13日預入  
《昭和59年8月24日預入分》

以上、報告いたします。

平成18年6月18日

兵庫教育大学大学院同窓会会長 吉田 廣  
同 副会長兼会計部長 北山 鎮道

## 監査報告

上記の第24期決算報告並びに運営積立金会計を監査した結果、正確であることを認めます。

平成18年6月18日

兵庫教育大学大学院同窓会監事長 望月 茂  
同 監事 岡崎 弘・石井 生滋  
光島 正豪・中根 弘之  
中園 大三郎・早川 求澄  
中本 幸美・福嶋 真澄

## 編集後記

多くの先生方のご支援・ご協力をいただき、お蔭様で、本会報を発行することができました。誠にありがとうございます。

教育基本法の改正、それを受けての関連3法の改正論議等、教育界の動向を見極めていくことはもちろん大切ですが、「目の前の子どもたち」を第一に考える実践者・研究者として、互いに切磋琢磨できたら、そして、本会報がその一助になればと願っています。

(山口県 西川敏之)

# 第26回兵庫教育大学大学院同窓会・岩手大会



第26回 兵庫教育大学大学院同窓会全国大会（岩手大会） 平成18年7月30日 於 サンセール盛岡



▲ 総 会



▲ 懇 親 会

来年度は  
広島大会で  
集おう

期日：平成19年7月28日(土)  
～29日(日)

会場：アークホテル広島

▶ 巡 検 (小岩井農場)

